

行するため、10年以上も付き合う羽目になったのです。そんな話になるはずじゃなかったのに・・・。

それでも、この先生に対する私達母子の信頼感は絶大でした。幾たび引越しようとも、長女は高校卒業まで、次女はその寸前までお世話になるほど、Mrs. Dohzenの元へ通い続けました。さすがに三女は、1台のピアノで3人が交代で練習するのは大変で途中棄権し、声楽やバイオリンに転向。ですが、姉たちの毎日の練習や毎週のおけいこに付き合いされたためか、たいした耳学問ぶりを発揮することがあり、しばしば家族を驚かせる音楽通。

< Guild と Theory >

Dohzen先生はピアノ教師協会に加盟されていましたが、娘たちにGuild (National Piano Guild Auditions) と Theory (Theory Examinations)、また、バッハなどのようなコンクールへの挑戦というプログラムを組まれました。

Guildは、年齢や個人で選択する曲目数やプログラムで違いますが、6才で4～6 pieces、17才で10 piecesのそれぞれの音階と曲を暗譜し、審査員の前で演奏する実技テストです。もちろん、暗譜した曲の全てをテストされるわけではありませんが、正確性・継続性・表現力・ペダル・ダイナミクス・リズム・テンポ・音色・演奏スタイル・テクニックを採点されます。

Theoryは音楽理論の筆記、聴音と実技テストです。筆記試験(100問以上と記憶)に制限時間はなく、娘たちは4時間も会場から出て来れないことがありました。聴音テストですが、試験前の特訓だけで臨んでいましたから、大変そうでしたね。それに加え、Guildに比べ曲数は少ないものの実技テストもあります。Guildで演奏した曲は使用できないため、新たに3・4曲は準備しなければなりません。

< 継続の力 >

この2つの試験は、パスしなければ、翌年に再試験。高校生レベルの選曲は小学生のものに比べれば難易度も高くなります。年間、一体どれほどの曲数をこなしたと思います? 何と16～20もの曲を暗譜し、その上に、実技練習の合間に音楽理論のテキストもやっていました。このピアノのテストと学校のテストなどが重なったりすると、子どもと私を囲む空気は険悪に。

毎日、練習するかしないかでバトルしましたし、おけいこを続けるか止めるかという選択肢も、母子で度々話し合いました。不思議な事に、私の方が嫌気がさして「やめる?」と聞いたことはあっても、娘達から言い出したことはありません。決して



楽しいおけいこではなかったはずですが、娘たちは週末を除く10年間のほぼ毎日、こつこつと練習を積み重ね、習得していました。

こんなに大変なことをさせたかったわけじゃないのにと、何度思ったことか。親子ともども、ただ漠然とピアノが少し弾ければという思いだったはず。娘たちが先生の指導によくついていったからなのでしょう、「おけいこ」という言葉で括れないハードなトレーニングになってしまいました。ですが、先生が組まれたプログラムを通じて、学校では学べないような体系的なスキルを身に付けたのも確かです。そして、子ども達にそのつもりはなかったにもかかわらず、音楽大学への奨学金をいただけるという結果が残りました。

< スパルタの夢 >

いつか子ども達が、私のために楽器を演奏してくれる姿を夢見ていました。夫も「バッハやベートーベンもいいけど、僕が歌える曲も伴奏してね」と、冗談のように言っていたような・・・。自宅で生演奏やカラオケを楽しむという、親の夢は叶えられました。こども達に感謝すべきでしょうね。

松本 康子 (まつもと やすこ)

1979年、夫の留学で、1歳半の長女を帯同し渡米。その後、アメリカで次女、三女を出産。専業主婦として子育てと教育を担当。

子ども達は、親から見てうらやましいバイリンガル・バイカルチャーの大人に育ちました。しかし、「アメリカで日本人の子どもをバイリンガルに育てた」私が、実は、子どもに育てられていたのです。このコラムでは、「海外でともに育った母と子」の姿を紹介させていただきます。

皆さんの海外での子育ての参考になりますでしょうか?

ブログ「やすこさんの通信日記」をどうぞ: www.infoe.com



康子さんの二人のお子さんの、10年以上にもおよぶ、ハードな内容のピアノ・レッスンの体験談です。

その長いお付き合いを通して、ピアノの先生とただだけではなくアメリカで生きてきた日系人・女性としての生活や考え方を、Mrs. Dohzenから、お子さんだけではなく、康子さんともに学んでいる姿が印象的です。

また、長期間の繰返し練習で、英語でdisciplineと呼ばれる訓練・学習を受けたことが、お子さんの人生の大きなパワーになることでしょ。